

大桑城跡総合調査報告書 刊行

市では、大桑城跡の国史跡指定を目指し、令和2年度から総合調査を実施してきました。このたび、その成果をまとめた「大桑城跡総合調査報告書」を、令和7年3月末に刊行しました。大桑城跡の最新の調査成果が詰まった一冊となっています。

この報告書は、5月12日(月)から市役所3階生涯学習課窓口で一般販売を開始します。

受付時間：9時～16時30分 価格：5,000円 販売冊数：75冊(なくなり次第販売終了)

郵送による販売も可能ですので、電話で問い合わせてください。なお、市図書館で閲覧することもできます。

生涯学習課文化財調査室 TEL32-9008

大桑城とは

大桑城は戦国時代に築かれた山城で、美濃国守護土岐氏の居城です。標高407.5mの古城山に位置し、城域は大桑・青波・富永に広がります。天文4年(1535)に起きた長良川の大洪水によって、当時守護の拠点であった「枝広」(現在の岐阜市長良公園)が大きな被害を受けました。これを機に「大桑」に守護の拠点を移し、山麓に城下町、山上に大桑城を整備したと考えられます。

天文12年(1543)、土岐氏は家臣であった斎藤道三に攻められ、大桑城は落城したと考えられます(天文11年という説もあり)。



▲三二模擬天守と朝日(撮影：山菅敦史)

発掘調査の成果

○伝「岩門」の発掘調査

江戸時代に描かれた絵図に「岩門」と記されている場所で、城の出入り口部分と考えられます。麓の古城山登山口から登城すると、一番初めに見ることが出来る遺構です。

発掘調査の結果、巨石を使用した石列と石を3石並べた石列、石垣によって、城門を構築していることが明らかになりました。城の出入り口部分に配置された巨石は権威の象徴として、来訪者に「見せる」目的で用されたものと考えられます。



▲伝「岩門」調査時の様子(巨石)

○伝「台所」の発掘調査

江戸時代に描かれた絵図に「台所」と記されている場所で、山頂付近で最も面積が広い曲輪※1です。

発掘調査の結果、池をもつ庭園を確認しました。池の縁には黒色の円礫が敷き詰められ、池の側面には白っぽい色の粘質土が貼り付けられていました。また、池の東側では、長方形や方形の石材を使用し、横目地が通る※2など、丁寧に積まれた石垣も確認しています。

遺物は、戦国時代のかわけ※3が多く出土しており、伝「台所」には、庭園を眺めながら酒を酌み交わし、客人をもてなすといった迎賓施設のような空間が存在したのかもしれない。



▲伝「台所」調査時の様子

○曲輪群の発掘調査

主尾根より北側に位置しており、三方を尾根に囲まれ、曲輪がひな壇状に構築されている場所です。大小さまざまな50の曲輪が密集しているため、曲輪群と呼んでいます。

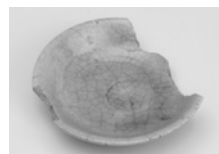
発掘調査の結果、両側面に石垣を構えた通路を確認しました。この通路は曲輪群の中央通路ともいえ、通路の左右に曲輪が展開しています。

他の調査箇所と比較して、戦国時代の遺物が多量に出土し、皿や茶碗などの日常雑器をはじめ、唐物茶入や花器といった優品も確認しました。多量に出土した遺物から、曲輪群が極めて居住性の高い空間であったことが分かります。出土した遺物のうち、最も多く確認したのはかわらけです。曲輪群には、家臣たちと酒を酌み交わしながら、政治の話をするといった土岐氏のプライベートルームな空間が存在したのかもしれませんが。



▲曲輪群調査時の様子(通路と石垣)

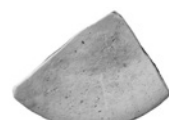
瀬戸美濃産
陶器の皿



灯明皿



かわらけ



▲出土した遺物

石垣

分布調査によって、確認した石垣は95箇所あります。曲輪の斜面に築かれ、土留めとしての役割をもつ石垣や、複数の石垣を段築状に築いたり石垣の石材に巨石を使用したりすることで、視覚的な効果を狙った石垣などを確認しました。城域の中で石垣が密集する場所とそうでない場所がありますが、全体として石垣が多く分布するため、城を恒久的に使用するという意識があったのかもしれません。



▲確認した石垣

四国堀跡

大桑城の南麓には城下町があったと考えられますが、その城下町の内外を区画する目的で造られたのが四国堀、越前堀、外堀という「堀」です。その中でも四国堀は、越前他4カ国の勢が掘ったものであるといえられており、現在も延長約100mにわたって空堀と土塁の痕跡が残っています。



▲四国堀跡

大桑城跡の魅力

調査では、大桑城が機能した時期が大方明らかになり、曲輪や石垣といった遺構が良好な状態で遺っていることが分かりました。また、多量に出土した戦国時代の遺物や、庭園の存在、巨石の使用などからは、土岐氏が新たな支配拠点として、守護にふさわしい城づくりを行っていたことが分かりました。

大桑城跡は美濃国の守護であった土岐氏が居城とした山城の跡です。戦国時代に美濃国を治めたリーダーの居城が、山県市に存在したのです。大桑城跡は、戦国時代にタイムスリップできる空間であり、美濃国のリーダーであった「土岐さま」に思いをはせることができる場所です。

●用語

- ※1曲輪：土を削る、盛るなどして造られた人工的な平坦地
- ※2横目地が通る：石材の継ぎ目が横方向にそろっていること
- ※3かわらけ：清浄の象徴として政治的な儀礼などで使用された素焼きの皿